



緑に囲まれた萩窪かん芸館にて、選りすぐりの歌曲とピアノ曲を楽しむひととき。祝日午後、休憩なしの1時間コンサートです。ハイドン、モーツァルトから、シューベルト、メンデルスゾーンまで、ドイツ歌曲を中心としたプログラムでお楽しみ下さい。かん芸館の所有するプレイエルP190は、歴史的フランスメーカーによる希少なモダンピアノです（現在では製造されていません）。その美しい音色をご堪能頂けるショパンのピアノ作品も演奏いたします。

同一プログラムによる1日2回公演。各回、会場定員の約半数の限定25席です。どうぞお早めにお申し込みください。

出演者プロフィール

馬淵元子 *Motoko Mabuchi* (ソプラノ)

東京藝術大学音楽学部楽理科卒業、同大学院修士課程にて音楽学(西洋音楽史)を修了。在学中より声楽を始める。2003～2006年ウィーンに留学。帰国後、シューマンの《女の愛と生涯》Op.42(於 ムジカーザ)や重唱歌曲集《スペインの歌芝居》Op.74(於 アプリコ小ホール)、イタリア・バロック二重唱(於 近江楽堂)など、ドイツ歌曲やバロック声楽を中心としたリサイタル活動を行う。最近では、ドイツ歌曲に関する記事発信など活動の幅を広げている。<https://note.com/vogelsang8>

声楽を菅田昭宏、ミルカーナ・ニコロヴァの各氏に師事。各種マスタークラス等にてグンドウラ・ヤノヴィッツ(ドイツ歌曲)、故クラウディオ・カヴィーナ、木島千夏(バロック声楽)の各氏のクラスを受講した。

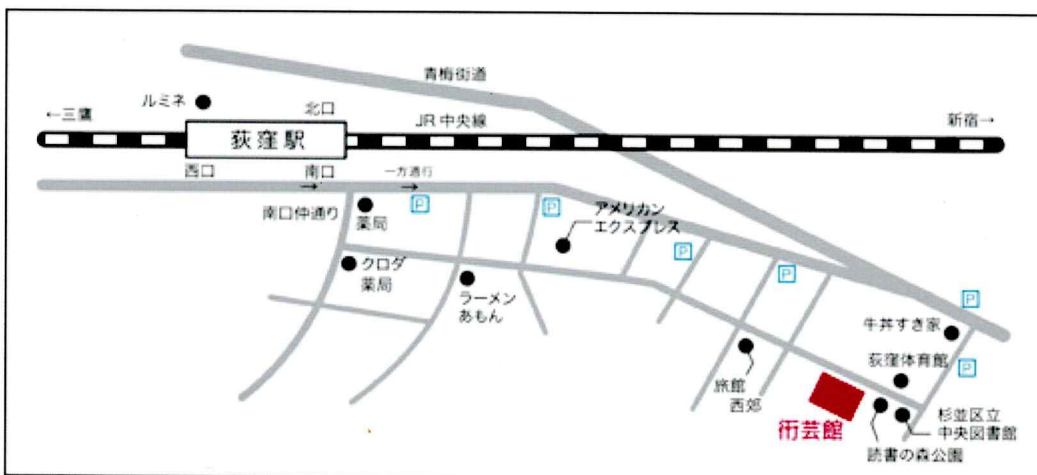
幡谷幸子 *Sachiko Hataya* (ピアノ)

京都市立堀川高等学校音楽科ピアノ専攻を経て、同志社女子大学学芸学部音楽学科ピアノ専攻卒業、同音楽学会《頌啓会》特別専修コース修了。第7回大阪国際音楽コンクールピアノ部門一般の部アブニール賞受賞。2004年大阪ザ・フェニックスホール主催「ピアノはいつピアノになったか?」第5回「鍵盤の上のベルカント、ショパンとオペラ」出演。1846年製プレイエルピアノ(山本宣夫氏修復)でのショパンの演奏が、「ピアノはいつピアノになったか?」(伊東信宏著)におけるCDにおいて収録。

モダンピアノを(故)丸山博子、スヴェトラ・プロティッチ各氏に、フォルテピアノとチェンバロを武久源造氏に師事。現在、モダンピアノとフォルテピアノで、ソロ、室内楽、リート伴奏等で活動中。

かん芸館 へのアクセス

ホームページ: <http://kangeikan.jp>



〒167-0051
東京都杉並区荻窪 3-39-14
TEL/FAX 03-5347-2668

JR 中央線
東京メトロ丸ノ内線
荻窪駅南口より徒歩 7 分

■ご来場にあたってのお願い■ 換気や消毒、出演関係者の体調管理を徹底するなど、感染予防対策を講じて開催いたします。

- ①マスクをご着用の上、入場時の検温、手指消毒にご協力をお願いいたします。37.5度以上の方は入場をお断りします。
- ②当日、発熱・咳があるなど体調がすぐれない方、また新型コロナウイルス感染症陽性者との濃厚接触者にあたる方は、来場をお控え下さい。開催時刻前に vogelsang8.kikaku@gmail.com にご連絡頂ければ、キャンセルを承ります。(すでにご購入済みの場合は後日、払い戻しをいたします。)
- ③出演者への花束、贈答品などは辞退させていただきます。 ④会場の換気をいたしますので、調節のできる服装でお越し下さい。